

「日本写真学会誌」 投稿論文執筆の手引き

(一社) 日本写真学会編集委員会

2001 (平成13) 年12月19日制定

2003 (平成15) 年12月21日改訂

2005 (平成17) 年1月31日改訂

2007 (平成19) 年9月12日改訂

2008 (平成20) 年3月14日改訂

2010 (平成22) 年11月17日改訂

2012 (平成24) 年4月17日改訂

1. 用紙と書式

A4判縦置き横書きで、余白は3cm程度、ワードプロセッサにより作成してください。和文原稿は1行27字で100行が刷り上がり1ページとなります。刷り上がりと同じ体裁にレイアウトする必要はありません。

2. 構成

原稿はつぎの順に配列してください。

表紙, 要旨, キーワード, 本文, 謝辞, 参考文献, 脚注, 図表の説明, 表, 図
本文の標準的な構成はつぎのとおりです。

緒言, 実験方法, 実験結果, 考察 (あるいは, 結果および考察), 結論

1) 表紙

まず日本語で、論文の種類、論文題目、著者名、所属、所在地を、行間をあけて書いてください。

次に英語で、論文題目、著者名、所属、所在地を、行間をあけて書いてください。著者名はフルネームで、Taro YAMADAのように姓を大文字で書いてください。

副題目を用いたときの通し番号は、原則としてローマ数字 (I, II, III…) としてください。

執筆時の著者の所属が現在と異なるときは、現在の所属を脚注に書いてください。

2) 要旨

和文および英文、両方の要旨を付けてください。レターの要旨は、和文は250字以内、英文は50語以内です。それ以外の論文は制限はありませんが、『要旨』の趣旨に合致するものをお願いします。

3) キーワード

和文および英文要旨に続いて、それぞれにキーワードを付けてください。原則として5個以内で、日本語ではすべてで40字、英語では20語以内です。

日本語を母国語としない著者が英語執筆する場合は、日本語要旨等を省略できます。

4) 本文

a. 用語は学術用語集に準じてください。翻訳不能の用語と日本語化していない固有名詞は原語をそのまま記してください。

b. 数量単位と単位記号は国際単位系 (SI) を使用します。

c. イタリック, ゴシック, 上付き, 下付きなどの文字は、明確に印字してください。

d. 0 (ゼロ) とO (オー) , 1 (イチ) とl (エル) , × (カケル) とX (エックス) , φ (フ

ァイ) とφ (プサイ) などのまぎらわしい文字, C, O, P, S, W, X, Y, Zのように大文字と小文字が似ている場合も, はっきりと区別できるように印字してください。

e. 章立ては, 1., 1.1, 1.2.1のようにして, 番号付けしてください。

3. 図, 写真, 表

- 1) 投稿論文では表記と説明文は, 必ず英語で作成してください。英文表記にすると趣旨が損なわれる場合は編集委員長にご相談ください。
- 2) 本文を読まなくても, 図, 写真, 表の内容がある程度理解できるように説明文を作成してください。
- 3) 図, 写真の番号は, **Fig. 1**, **Fig. 2**のようにつけます。
- 4) 図, 写真の説明文は, 本文や, 図, 写真とは別の用紙に番号順に書いてください。
- 5) 直接製版可能な鮮明な図を作成してください。
- 6) カラーの写真や図版印刷は, 実費負担となります。詳細は編集委員長にお問い合わせください。
- 7) 表は個別に作成し, 番号を**Table 1**, **Table 2**のように付け, 説明文とともに上部中央に書いてください。
- 8) 図, 写真, 表の挿入箇所を, 原稿右側余白に“**Fig. 1**挿入”のように記入して下さい。
- 9) 審査終了後の印刷用原稿では, 図・写真・表ともに, デジタルデータを一緒に提出してもらいます。汎用的なデータフォーマット (tif, jpg, bmp, epsなど) を用い, 階調のビット数, 画像の大きさ, 圧縮, などに十分に注意し, 1葉ずつ個別ファイルにして, 電子ファイルで提出してください。なお, データファイルが印刷所で読み取れないことに備えて, 精細な印刷を必ず添付してください。

4. 脚注

脚注をつける本文の字句の右肩に, *, **, …の記号をつけてください。

脚注の文章は, 別紙に行間を空けて書いてください。該当ページの最下段に印刷されます。

5. 引用文献

1) 文献引用の表わし方

文献を引用するときには, 該当箇所の右肩に通し番号を¹⁾ ²⁾ …のように上付き文字で記し, 文献名は別の原稿用紙に一括して番号順に列記してください。

2) 原則として私信は引用しないでください。やむを得ず引用する場合は, 内容を公開できるようにしてください。

3) 引用文献の書き方

雑誌は, 引用番号, 著者, 誌名, 巻, ページ, 発行年の順に並べ, 巻数はゴシック文字または下線でゴシック指定します。発行年は () でくくってください。読者の助けになると思われる場合, 題名を記入してもかまいません。その場合は, 著者の次に“ ”で囲って記入してください。誌名は, 和文誌は正式名で, 欧文誌はChemical Abstracts等に従って略記し, 略名が一般的でなければ, 正式名で書いてください。

例: M. A. Kriss, J. Soc. Photogr. Sci. Tech. Jpn., **59**, 186 (1996).

著者名と誌名が英文でも表記されている和文誌の文献の場合, できれば英文の著者名と誌名を併記してください。(J-stageの電子ジャーナルで引用文献が表示される際, 英文のページでは和文誌の文

献に対して英文表記の氏名と誌名のみが表示されます。和文で表記されているものは表示されません)

例：細井一邦，平野昭裕，日本写真学会誌，Kazukuni HOSOI, Akihiro HIRANO, J.Soc.Photogr.Sci.Tech.Jpn., **62**, 269 (1999).

英文と和文が混在している雑誌の場合，対象文献の本文が英文であれば，著者名，氏名も英文でのみ表記してください。本文が和文の場合，上記の書き方によります。

単行本は，引用番号，著者，書名，版数，編者，出版社，出版地，出版年，ページ(章)の順に並び，便覧などで担当執筆者が不明の場合は，編者を引用番号のすぐあとに書いてください。書名は“ ”で囲みます。

例：1) 日本写真学会編，“改訂 写真工学の基礎(銀塩写真編)”，コロナ社，東京，1998, p. 100.

2) J. H. Hamilton, “The Theory of the Photographic Process”, 4th ed., by T. H. James, Macmillan, New York, 1977, p. 108.

6. 数式および化学式の表記法

1) 数式

文中の数式

a/b, $\exp(-E/RT)$ のように表記し，二重添え字やeの肩にのる字などは避けてください。ただし，理解を混乱させる恐れがあれば，この限りではありません。

独立した数式

本文中に上下に1行程度の空きスペースをとって明瞭に書き，連続した式番号を付けます。

長大な数式で誤認の恐れがあれば，本文には上下に1行程度のスペースをとって「別紙，数式(番号)」と書き，別紙に式番号とともに書いてください。

2) 化学式，および化合物名

化合物の命名

本文では原則として，化学式ではなくIUPAC命名法に従った化合物名で表記してください(ただし，混同の恐れがあれば，この限りではありません)。日本語表記でも簡単に一般性が高ければかまいませんが，学術用語集に準拠してください。あまりに古い慣用名，科学的に根拠のない慣用名は使えません(例：芒硝，苛性ソーダ，ハイポなど)。英語の慣用名は，Chemical Abstractsに準拠してください。

化合物の略記号

化合物に略記号を用いる場合は，本文の初出個所で，正式な化合物名に対応させてください。

例：1-フェニル-5-メルカプトテトラゾール(以下PMTと略記)。あるいは(以下化合物(I)とする)など。

独立した化学式

反応式，構造式等の化学式は，本文中に上下に1行程度のスペースをとって明瞭に書き，連続番号を付けます。長大で誤認の恐れがある式は，本文には上下に1行程度のスペースをとって「別紙，化学式(番号)」と書き，別紙に式番号とともに書いてください。

3) ワープロの数式・化学式エディターを使用する場合は，印刷所の組版ソフトで読み取れないことがありますので，正確に印刷した原稿を付してください。